

## 令和4年度未来につながる持続可能な農業推進コンクール表彰者一覧（九州農政局関係）

### 1 農林水産大臣賞

| 市町村名   | 応募者氏名           | 応募タイトル                            | 部門  |
|--------|-----------------|-----------------------------------|-----|
| 宮崎県都城市 | イシハラフーズ<br>株式会社 | 安心野菜と理想の労働環境を実現する独自<br>IT システムの構築 | GAP |

### 2 農産局長賞

| 市町村名           | 応募者氏名                   | 応募タイトル                               | 部門               |
|----------------|-------------------------|--------------------------------------|------------------|
| 熊本県上益城郡<br>御船町 | 有限会社くまもと<br>有機の会        | 2050 年 有機農業 25%拡大を目指して               | 有機農業・<br>環境保全型農業 |
| 宮崎県児湯郡<br>新富町  | 合同会社オーガニ<br>ックファーム ZERO | 安心・安全ナンバーワンの農家を目指した環<br>境保全型農業へのこだわり | 有機農業・<br>環境保全型農業 |
| 熊本県熊本市         | 有限会社<br>アーティフル          | 農業で美しくて幸せな環境をつくる                     | GAP              |

### 3 九州農政局長賞

| 市町村名    | 応募者氏名                                | 応募タイトル                              | 部門               |
|---------|--------------------------------------|-------------------------------------|------------------|
| 鹿児島県指宿市 | いぶすき農協<br>指宿オクラ部会<br>エコファーマー<br>グループ | 作る人・食べる人・環境に優しいオクラ栽培                | 有機農業・<br>環境保全型農業 |
| 熊本県宇土市  | 有限会社<br>重元園芸                         | 農業経営の発展につながる GLOBALG. A. P. の<br>実践 | GAP              |

所在地：宮崎県都城市下川東  
2丁目1号1番地

認証：JGAP

応募区分：個別経営の部

面積：460ha（延べ面積）

構成員：19名（同社農産部門の従業員数）

栽培品目：ほうれんそう、こまつな、えだまめ、さといも、にんじん、だいこん、ブロッコリー

## 取組の紹介

### 【GAPに取り組んだきっかけ】

- 昭和55年、野菜卸売業として創業。その後、冷凍野菜製造業に進出。契約農家の高齢化等による離農が相次ぎ、原料野菜の安定確保を目的に耕作放棄された農地の借地を進めて、現在、宮崎県都城市、鹿児島県曾於市下の計260haを借地。同社農産部門の従業員19名で、年間延べ460haで野菜を周年生産。「地域の農地を守る営農システム」を構築。
- 平成15年、農業生産法人として農業参入。同18年、エコファーマー認定を受ける等、環境負荷低減の取組を行ってきた。平成30年頃、取引先からGAP認証の紹介を受け、令和2年10月、ほうれんそう、こまつな、えだまめ等でJGAP認証を取得。

### 【GAPの継続に向けた取組】

- 社内で定期的にGAP勉強会を開催し、従業員のGAP営農レベルを維持、向上。
- GAPの取組等を記録し、社員間でリアルタイムに共有できる独自の営農管理アプリを自社開発。全ほ場にQRコード付きの看板を設置。従業員が作業の都度スマホで読み込むことで日時やほ場情報が自動入力され、作業進捗を本社で共有。その日の作業やほ場での注意事項（農薬のドリフト防止等）を従業員にスマホで指示。
- クレームの削減と、農福連携の取組として、収穫した葉物野菜の異物除去やほ場の除草を地域の就労継続支援B型事業所が請負。

### 【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- GAPの取組の一つとして、化学分析担当の社員を置き、適正な土壌管理を実施。自社検査室での土壌分析、診断に基づいた「土づくり」を実施。特に硝酸態及び可給態窒素に留意し化学肥料の減肥を行い、積極的に有機質肥料を使用。全790ほ場の年1回診断を実施。生育の思わしくないほ場は頻度を上げて分析し改善。
- 全てのほ場で特別栽培農産物を生産。また、フィールドマンを置き、全ほ場での作物の生育や病害虫の発生、農薬散布を一元管理。
- 社内で情報管理・情報共有のデジタル化を進めたことで、従業員はその日の作業ほ場に直行し、直帰できるようになり、作業記帳等のための1日30分程度の労働時間削減を実現。

### 【波及効果】

- スイミー都城（都城市、三股町の雇用型経営体の経営改善活動のグループ）の活動に設立当初から参加し、地域や経営課題に取り組む中で、参加法人4社がスイミー設立後GAP認証を取得。



社内のGAP勉強会を定期的に開催



従業員のスマホに表示されたGAPに関する内容の作業指示



自社開発した営農管理アプリで、ほ場QRコードをスマホに読み込み。



スイミー都城「女性農業者のためのトラクター講習会」

# 有限会社 くまもと有機の会

有機農業・環境  
保全型農業部門

農産局長賞

所在地：熊本県上益城郡御船町

面積：約60ha

構成員：50人

栽培品目：水稻、にんじん、たまねぎ 他

## 取組の紹介

### 【環境負荷低減に資する取組の推進】

- 1985年に、「くまもと有機の会」を設立。現在、経営する約60haの全ほ場で有機農業に取り組む。そのうち、43haで有機JAS認証を取得。
- 100種類を超える露地野菜を地域の標高差を活用して栽培し周年を通じて販売。2022年の売上は農産物・農産加工品なども含め、約3億2,000万円。
- 土壌分析に基づく土づくりを行うため、土壌分析室を設置（2010年）し、窒素、リン酸、カリ、pH、EC、微量元素を分析。年間 80 件以上の検体を分析し、会員の経験則と蓄積したデータに基づく地域・品目に応じた適切な施肥設計を行うとともに、馬ふん堆肥、竹チップパウダーなどの地域資源を活用した土づくりを実施。

また、生産物の栄養素分析も行い、その結果を施肥設計にフィードバックすることで、生産物の品質向上につなげており、「農産物の栄養価・食味コンテスト」（徳島県開催）で最優秀賞（4回）優秀賞（2回）を受賞するなど、環境負荷低減と品質向上につながる取組を実践。



竹チップパウダーの利用



野菜セット

### 【安定出荷・販路拡大に向けた取組】

- 県内の有機農業者が連携し、関東、関西、中部の消費地への共同輸送を実施。一般の運送便で掛かるコストの約5割を削減。
- 資材や燃料の使用を抑えられる露地栽培を基本とするとともに、県内での配達時の段ボールや発泡スチロール箱はほぼ 100%回収、次回配達に使い、廃棄資材を削減。
- 契約購入を行う消費者「虹の会：454名」との意見交換や、その意見を生産活動へフィードバックするとともに、交流の場として、田植え稲刈り交流、消費者向け有機農業講座、県内子供食堂（2018年より毎週）への継続的な食材提供を実施。
- 有機米を原料にした有機玄米餅や有機発芽玄米等の加工品を開発し、県外の生協へ出荷。



回収・再利用しているダンボール

HP・SNS等

HP：<https://kumamotoyukinokai.jimdofree.com>

# 合同会社オーガニックファーム ZERO

有機農業・環境  
保全型農業部門

農産局長賞

所在地：宮崎県児湯郡新富町

面積：6 ha

構成員：4人

栽培品目：水稲、にんじん、ばれいしょ 他

## 取組の紹介

### 【環境負荷低減に資する取組の推進】

- 2003年から有機農業を開始し、現在は、経営ほ場16haの6haで有機農業を実施。
- 水稲及び野菜の田畑輪換を行う2haで地下水位制御システム（FOEAS）を整備するとともに、土壌分析に基づく、豚ふんや魚かすなどの有機資源を活用した土づくりを行い、慣行比9割の収量を実現。
- 有機水稲生産では、通常2回行う代かきを3回実施し、深水管理や2回のチェーン除草を組み合わせた抑草を実践。
- この他、地域の未利用資源の利用に向けて、2022年からバイオマス消化液を試行的に施用。従来の有機質肥料に消化液を併用することで、資材コストの約5割削減（収支は約3割プラス）となる見込みであり、2023年には本格実施を予定するなど、収益性の高い有機農業の実現に向けて新しい取組に挑戦。



有機米ほ場

### 【効率的な生産体制に向けた取組の推進】

- 慣行から有機農業への転換に合わせて、生産ほ場を集約化し、規模拡大を図るとともに、効率的な有機農業を実践。（1区画：2ha及び3.5ha）



輸出用にパッケージされた有機米

### 【安定出荷・販路拡大に向けた取組】

- 2020年に有機米の輸出を目指しASIAGAPを取得。2021年から台湾に輸出（600kg）を開始し、2022年には輸出量を約1tまで倍増。これにより、1,000円/kg（粗収益ベース）を確保。
- 販路の多角化に向けては、2021年から県内加工業者と連携した商品（「箸で切れる餅」、「冷めても柔らかいお餅」）を開発し販売するとともに、同法人が経営する「おにぎり屋」で有機米を加工・販売し、地域住民など消費者に対する有機農業への理解醸成にも取り組む。



箸で切れるもち（お箸ほぐれシリーズ）

HP・SNS等

HP：<https://www.organicfarmzero.com/>

所在地：熊本県熊本市中央区  
 上通町 8-14  
 認証：GLOBALG. A. P.  
 応募区分：個別経営の部

面積：3ha  
 構成員：25名  
 栽培品目：ミニトマト

## 取組の紹介

### 【GAP に取り組んだきっかけ】

- 東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会の食材調達基準に GAP が採用されたことがきっかけ。平成 30 年 5 月、ミニトマトで GLOBALG. A. P. 認証を取得した。

### 【GAP の継続に向けた取組】

- 従業員の 8 割が農業未経験者であり、理解しやすい農作業マニュアルを作成。効率的な農作業の習得を図るとともに、全従業員を対象に GAP 研修会を定期的実施。
- 半年ごとのアルバイトとの意見交換や、全従業員を対象にした年 1 回のカイゼンアンケートを行い、農林水産省「女性の就農環境改善事業」を活用した男女別のトイレや休憩室の設置など、これまでに 100 件以上の業務改善を実施。
- 作業状況等に応じて県下 3 か所の農場間で人繰りを行う等柔軟な勤務体制を構築し、従業員の急な休暇にも対応可能な働きやすい職場を実現。

### 【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- GAP 認証のミニトマトの安定生産を行うことで全国への周年安定出荷を確立。法人としての利益率（売上高の中に占める利益率）が 10% となった。
- GAP の取組の一つとして、天敵製剤や防虫ファン、粘着トラップなど IPM を積極的に導入し、農薬費を約 5 %、農薬散布回数を約 3 割削減するとともに、ミスト機器を用いて農薬散布を無人化し、従業員の暴露にも配慮。

### 【波及効果】

- ミニトマトの効率的な生産とともに効果的な販売方法の検討を行い、様々な種類のミニトマトを化粧箱に詰めた贈答品を開発しネット販売。ふるさと納税の返礼品にも選定。
- 地元の農業高校生徒等の視察、勉強会を定期的に受け入れ。社をあげて GAP の取組を紹介。



自社で作成した、農作業マニュアル



社内に整備した休憩室



カラフルミニトマトの贈答品



地元農業高校の視察受け入れ

# いぶすき農協指宿オクラ部会 エコファーマーグループ

有機農業・環境  
保全型農業部門

九州農政局長賞

所在地：鹿児島県指宿市東方 10776 番地

面積：4.2ha

構成員：18人

栽培品目：オクラ

## 取組の紹介

### 【環境負荷低減に資する取組】

- 化学農薬の使用量を低減するため、県・市・JA など関係機関と連携しながら、露地栽培では全国でも類を見ない IPM 技術の導入による防除法の確立と普及に取り組む。
- 露地オクラでの IPM 技術は、土着天敵であるテントウムシ等を利用し、アブラムシ類をターゲットにした防除法であり、オクラのほ場の周りにバンカー作物として土着天敵が集まるソルゴーを植栽し、この天敵がオクラに発生するアブラムシを捕食。なお、アブラムシが増えすぎた場合やチョウ目害虫が発生した場合は選択的農薬で防除。
- IPM 実施ほ場は、取組当初（平成 26 年）の 0.5ha から、令和 2 年度産ではエコファーマーグループで 4.2ha、指宿オクラ部会全体では 44.1ha に拡大。



土着天敵のテントウムシ



オクラ畑とバンカー作物のソルゴー

### 【効率的な生産に向けた取組】

- 収量は慣行栽培と変わらず、アブラムシの防除回数の低減や、農薬費が 5 割程度削減され、農薬散布作業の省力化と身体的負担も軽減。

### 【消費者等への情報伝達の取組】

- 二次元コードが添付された専用の出荷袋を作成し、エコファーマーグループの紹介や IPM の取組、オクラの栽培の概要、レシピ等を消費者へ P R。



二次元コードが添付された専用の出荷袋

## HP・SNS 等

※エコファーマーグループのご紹介（JA いぶすき公式サイト）

<http://ja-ibusuki.or.jp/ecofarmer>

# 有限会社 重元園芸

GAP部門

九州農政局長賞

所在地：熊本県宇土市走潟町 2239

認証：GLOBALG. A. P

応募区分：個人経営の部

面積：15ha

構成員：25人

栽培品目：キュウリ、レタス、白ネギ、  
水稲、イチゴ

## 取組の紹介

### 【GAPに取り組んだきっかけ】

- 知人の大規模農業法人から「GAP 認証を取得していないと輸出や大手企業との取引が優位に進められない」と聞き、GAP の存在を知ったことがきっかけ。2014 年、全国に先駆けてキュウリの GLOBALG. A. P. 認証を取得した。

### 【GAP の継続に向けた取組】

- 農業生産情報管理システムの利用により日々の作業や農薬の散布履歴の記録が可能になり、取引先から求められる栽培記録を速やかに提出できるなど、作業の省力化を図る。
- 年に 1 回、GAP や会社のルールを確認する教育訓練を実施。

### 【生産効率の向上に向けた取組とその効果】

- 自社で作成した生産性シートの活用によりスタッフの収穫スピードの標準化。また、収穫カッターの導入により、スタッフ全員の収穫スピードが 10～20%向上。
- 自動灌水装置やキャスター付き台車の導入により作業の省力化に取り組むとともに、SNS を活用した連絡により伝達ミスを削減。

### 【波及効果】

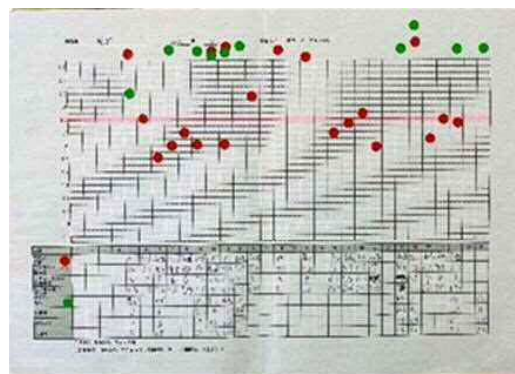
- レタス生産グループのメンバーとして、GAP の団体認証に向けたアドバイスを実施。
- 県内・外の視察研修を受け入れ、GAP の取組やメリットを紹介。

## HP・SNS 等

HP：<https://shigemoto-engei.co.jp>



農業生産情報管理システムの使用



自社で作成した生産性シート



整理整頓された収穫器具